

2024年度中核機能強化事業第三者評価

実施日：2024年 3月 7日(金) 10時から 12時

場 所：つくも幼児教室

評価者：児童発達支援センター銀河鉄道（八街市） 園長 船木瑠衣子

出席者：つくも幼児教室 施設長 齋藤 正太郎

① 幅広い発達段階及び多様な障害特性に応じた専門的な発達支援・家族支援の提供体制を確保しているか

つくも幼児教室は、障害の特性に関わらず、すべての利用者に対して支援が行われていることが確認されました。具体的には、利用者のニーズに応じた専門的な支援が提供されており、特に親子希望の場合には、そのニーズに対応したクラスが設けられる仕組みとなっています。

また、家族支援については、年3回の面接が実施され、さらに年2回の家族参加型の活動が提供されています。加えて、法人行事（秋季）には、子どもたちが保護者と共に参加することができる機会も設けられており、家族全体の支援が体系的に行われている様子がうかがえます。

以上の点から、施設は発達段階および障害特性に応じた支援体制を確保していると評価されます。

② 市町村及び地域の関係機関との連携体制を確保しているか

（市町村との定期的な情報共有、地域の協議会への参加等）

市町村及び地域の関係機関との連携体制を確保しており、その活動に積極的に参加していることが確認されました。具体的には、長生郡総合支援協議会療育作業部会に参加しており、会議には以下の関係者が参加しています。

- ・療育支援コーディネーター
- ・支援学校の先生
- ・長生郡市の役所の担当者

この部会では、主に児童発達支援や放課後等デイサービス、不登校児童に関する課題について情報共有が行われており、定期的に2か月に1回の頻度で開催されています。さらに、児童発達支援事業所に関連する集まりは年間2回行われ、放課後等デイサービス事業所の会議にも参加していることが確認されました。これらの活動を通じて、施設は地域の関係機関と緊密に連携し、情報の共有および協力を行っていることがわかります。

以上の点から、つくも幼児教室は地域の関係機関との連携体制を確実に確保しており、定期的な情報共有と協議会への積極的な参加が行われていると評価されます。

③ 地域の障害児通所支援事業所との連携体制を確保しているか

(定期的な情報共有、研修会の開催等)

地域の障害児通所支援事業所との連携体制を確保しており、定期的な情報共有が行われていることが確認されました。具体的には、児童発達支援事業所連絡会を年2回開催しており、つくも幼児教室を含め約8か所の児童発達支援事業所が参加しています。これにより、各事業所間での情報交換や支援に関する意見交換が行われ、連携が強化されています。

さらに、放課後等デイサービスに関連する会議にも参加しており、地域の障害児通所支援事業所との密な協力体制が築かれていることが確認されました。

以上のように、施設は地域の障害児通所支援事業所との連携体制を確立し、定期的な情報共有や意見交換を行い、協力関係を強化していることが評価されます。

④ インクルージョンの推進体制を確保しているか

(保育所等訪問支援の実施、地域の保育所等への助言援助等の実施等)

インクルージョンの推進に積極的に取り組んでおり、地域の保育所等への巡回訪問支援を実施しています。具体的には、茂原市、睦沢町、長生村の各保育所等を訪問し、支援を行うとともに、保育所等の職員に対して助言や援助を行っています。これにより、地域の保育所等でのインクルージョンの実践が促進され、支援体制が強化されています。

以上のように、施設はインクルージョンの推進体制を確実に確保し、地域の保育所等に対して積極的な支援と助言を行っていることが評価されます。

⑤ 入口としての相談機能を果たす体制を確保しているか

(障害児相談支援の実施、早期の相談支援の提供等)

つくも幼児教室は、障害児相談支援に関して、専門的な相談支援体制を確立しており、相談支援専門員2名体制で対応しています。これにより、利用者に適切なサポートが提供されています。

また、千葉県の障害児等療育支援事業を実施しており、地域の障害児に対する支援活動も行っています。さらに、市町村の健診での発達相談にも対応しており、障害の早期発見と支援が効率的に行われ、地域社会における障害児支援の入り口として重要な役割を果たしています。

以上のように、施設は早期の相談支援を提供し、障害児相談支援に関する体制を確実に整備していることが確認され、相談機能を果たす体制が適切に確保されていると評価されます。

⑥ その他事業全般に対する助言等

つくも幼児教室の事業全般について、保護者からのフィードバックを踏まえていくつかの改善点が指摘されています。特に、アンケート結果からは、施設内の設備安全面に関する懸念が挙げられています。具体的には、建物が古く玄関や部屋の入口に段差があることに対する保護者の不安が表明されており、これに対して改善策を検討する必要があると考えます。施設が子どもたちの安全を確保するために、適切な安全対策を講じることが重要です。

今後、保護者の意見を踏まえた上で、施設内の安全環境の改善や、その他の事業全般に対して必要な助言や支援が行われることを期待します。

令和7年3月7日

記載者名：

船本 瑠衣子

